

龍谷大学における「仏教 SDGs」を通じた成果と課題（2023 年度）

2024 年 11 月 1 日

龍谷大学では、2020 年度から 2039 年度を計画期間として展開する将来計画「龍谷大学基本構想 400」における将来ビジョンとして、『まごころ～Magokoro～』ある市民を育み、新たな知と価値の創造を図ることで、あらゆる『壁』や『違い』を乗り越え、世界の平和に寄与するプラットフォームとなる」旨を掲げています。これは、まさに、持続可能な社会の実現を希求する計画といえます。

また、浄土真宗の精神を建学の精神とする本学では、阿弥陀仏が「すべての生きとし生けるものを決して見捨てない」と誓われた心（摂取不捨）と、SDGs が掲げる「誰一人取り残さない」という理念とに共通点を見出し、この仏教的な視点を通して大学構成員自らの自省と気づきを促す「仏教 SDGs」を掲げ、SDGs に資する諸事業を様々に展開しています。これらを踏まえ、龍谷大学ならではのアプローチで SDGs の達成に貢献することを誓い、2022 年 2 月に「龍谷大学 SDGs 宣言」を発出するに至りました。

ここでは「環境」「経済」「社会」及び「パートナーシップ」の 4 つの区分に分類し、2023 年度の主な活動を通じた成果と課題をまとめました。各取組の詳細については「[龍谷大学の SDGs 取組実績](#)」をご参照ください。

龍谷大学基本構想 400 - 2039 年創立 400 周年を超えた未来に向けて -

<https://www.ryukoku.ac.jp/400plan/>

龍谷大学 SDGs 宣言

<https://www.ryukoku.ac.jp/sdgs/about/>

仏教 SDGs について

<https://retaction-ryukoku.com/concept>

龍谷大学の SDGs 取組実績

<https://www.ryukoku.ac.jp/sdgs/goal>

社会分野



京都市立西京高等学校附属中学校に設置された「OiTr」。

格差社会や社会的分断といった言葉が多く聞かれるようになった今、一人ひとりの心に寄り添うことや、DE&I（ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン）の必要性が一層高まっています。

本学では、2023年5月7日に社会的孤立回復支援研究センターが「新型コロナウイルス感染症 忘れないで！亡くなった人のことを～With コロナ 誰もが悲しみを語れる社会へ～」をテーマに講演会・討論会を開催しました。ノンフィクション作家や遺族、医師、弁護士などが参加し、新型コロナによる死や社会の対応について討論するとともに、コロナ禍での喪失や尊厳ある死を考察しました。遺族からは、5類移行後にコロナの記憶が風化しないよう警鐘を鳴らし、社会全体で悲しみを共有する必要性が強調されました。

「生理の貧困」という言葉が社会的に話題になり、本学では生理にまつわる問題について、学生と教職員が協力して取り組んできました。2023年5月には、生理用ナプキンの無料化

を実現するサービス「OiTr」を提供するオイテル株式会社、京都市の3者で連携し、京都市立学校への「OiTr」の試行設置及び児童生徒への保健指導における活用等を実施しました。

生理用ナプキンを配付するとともに、「OiTr」付属のデジタルサイネージにて月経等に関する知識や情報の周知啓発につながるような教育的コンテンツを配信し、児童生徒が月経等について一人で抱え込まずに相談しやすい環境づくりを図っています。

また、龍谷大学ユヌスソーシャルビジネスリサーチセンターと南山城学園が、製造業と福祉分野の社会課題解決に向けて発足した KOUFUKU(工業×福祉)連携プロジェクトでは、働きづらさを抱える人を支援するシステムを構築しました。「就労継続支援B型」事業所内に協働型ロボットシステムを導入し、働きづらさを抱える人の特性を発揮できるようにセンサーデバイスの製造ラインを構築しました。これにより工賃の向上も目指しています。学生も施設にて利用者のヒアリングを行い、システムの構築に関わりました。

今後も、多様な学生が集い学ぶキャンパスづくりを推進するとともに、誰一人として取り残さない社会の実現に向けて変革の担い手となる人材を育成します。